

ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム
平成 28 年度第七回企画運営委員会議事概要

【日時】 2016 年 12 月 1 日（金）12 時 00 分～12 時 50 分

【場所】 情報科学 C 棟 401 室

【出席（敬称略）】 清水（委員長・情）、尾上（情）、藤原（情）、増澤（情）、谷田（情）、井上（情）、若宮（情）、松下（情）、藤田（生）、細田一（情）、中野（生）、中村（基）、EUM（情）

【遠隔参加】 なし

【事務局】 鐘ヶ江（情/大学院係長）、徳野（情/部門事務局長）磯田（情/部門事務）、井汲（情/部門事務）、谷川（情/部門事務）、森田（生/部門事務）、渡会（情/部門事務）

【欠席（敬称略）】 村田（情）、原（情）、難波（生）、大澤（生）、八木健（生）柳田（生）、平岡（生）、近藤（生）、石黒（基）、細田耕（基）、宮崎（基）、松岡（サイバー）石井（生）

【事務局】 松岡（情/事務長）、岡本（情/部門事務）、

配布資料

HWIP ホームページ教員用ページにアップします。（パスワード： HWinnovation）

議題

(1) 教務委員会（資料あり）

- 今年度の教務活動について進捗報告があった。
各年次授業等は順調に進んでいる。
- 早期修了希望者のあるケースも想定に入れた予備審査申請書草案の提示があった。
修了要件についての確認のほか、「学位論文における研究の内容」「融合研究の内容」「その他研究以外での活動、研究やその他活動により成長した点、博士号取得後の目標」といった項目についての記述などで構成する。
- 最終審査で審査項目となっている GPI スキル診断について、改めてその内容と判定基準などの説明があった。さらにどのように基準を満たせば、要件が満たされたとするかについて閾値の決め方・判定基準が提示された。

⇒ 予備審査申請書様式及び GPI スキル標準の評価基準については、現在教務委員会において確認、意見交換中であり、意見のある方は教務委員会に連絡いただきたい。

・学位論文における研究内容と融合研究の内容が同一の場合、各様式にはどのように記載すればよいのか。 → 同じ内容を各項目に記載すればよい。そのことについて、学生

には伝わるように準備する。

(2) リーディング大学院選抜委員会（資料なし）

- 平成 29 年度募集対象者への説明会を 12/22 日に実施予定。応募を検討している学生などへの周知をお願いしたい。
- 12/7 に 1 年次に対する Pre-QE 実施予定。

(3) 海外連携委員会（資料あり）

- 海外派遣状況について報告があった(予定含め短期 33 名、インターンシップ 4 名) 海外のビザ取得が難しいケースが見受けられる。派遣が実現するように早めの準備、サポートと求めるよう学生に注意を促していく。
- EU 海外研修について
 - ◇ 教員 4+履修生 14 にて 11/22~29 で実施した。
 - ◇ パナソニック(ドイツ・ランゲン)、NEC(ドイツ・ハイデンベルク)、アーヘン工科大学(ドイツ・アーヘン)、MRC 分子生物学研究所(イギリス・ケンブリッジ)を訪問。
 - ➔ Panasonic ; インターンシップの受入れについては難しい状況
 - ➔ NEC ; インターンシップの受入れ体制が整っており、具体的に希望者がいれば実施できる状況
 - ➔ アーヘン工科大 ; ドイツから日本への学生は多いが、日本から来る学生が少ないとのこと。アーヘン工科大学では奨学金などの制度もあるため、今後つながりが発展していくことに期待したい。
 - ◇ 参加学生からは、英語での自身の研究紹介や先方との交流により、自信やモチベーションが向上した、また、インターンシップや海外キャリアに関する情報を得られたことで、修了後の進路等について刺激を受けたとの感想を得た。

(4) 産学官連携委員会（資料なし）

- 報告事項なし

(5) 広報企画委員会（資料なし）

- 11/11-12 東京でリーディングフォーラムが開催され、履修生数名と教員 2 名が参加。
- 5 部門合同の平成 29 年度選抜説明会を 10/17、10/27 に実施済。
参加者 吹田 51 名(アンケートでは、内 2 名が HW に興味ありと回答)、豊中 71 名(内 14 名が HW に興味ありと回答)。
- 国際シンポジウムのポスター・チラシが完成、今後関係各所へ配布予定。
当日支援としてイベント会社も活用。シンポジウムの際に実施するポスターセッ

ションに関連して、学生の研究要旨集の作成を予定している。

- 教員向け説明会を12月の各研究科教授会開催時に実施予定。情報科学研究科は本日(12/1)教授会終了後、生命機能研究科は12月14日の教授会前後で実施予定。基礎工学研究科については例年参加者が少数であることから、メールでの依頼及び資料の送付による周知依頼とする予定。(情報科学、生命機能の両研究科についても同様に資料の送付は行う)

(6) その他

- 残予算について(清水教授)

これまでの関係各所の支援により、プログラムが高評価を得ている。

今回、諸経費の効率化を図ったことで予算に少し余裕ができたので、更なる設備の充実化を図り、学生の研究環境の一層の充実及び新たな分野への整備を行いたい。予算としては20,000千円前後と考えている。現在、本委員会と並行して企画幹事にもメールで意見を伺っている。

→導入設備などを確認し、意見交換の後、承認された。

- PO訪問について(清水教授)

年1回のPO訪問が、2月27日(月)午後に決定。幹事・委員長等には出席をお願いしたい。POと履修生との意見交換も予定されており、対応学生を今後調整予定。

次回：2月2日(木) 12:00-13:00 情報科学研究科 C棟4階 C401